

市民医療センター長・事務部長目標

● 市民医療センター長 繁 英樹(しげ ひでき)

● 市民医療センター事務部長 鈴木 哲也(すずき てつや)



● 当センターの仕事を通して貢献しているSDGsの主なゴール



● 市民医療センターの仕事

市民医療センターは、公的医療機関として地域に必要な医療の確保と保健医療の向上及び健康維持・増進を図るため、内科の入院・外来診療、小児科の外来・急患診療及び人間ドックなどの健診事業を中心に病院事業を運営しています。

● 市民医療センターの令和3年度の目標

市民医療センターの目標は、今般の新型コロナウイルス感染症の拡大防止・抑制に取り組むとともに、市民の皆さまが、住み慣れた地域でいつまでも暮らすことができるよう、市内の医療機関や地域包括支援センターなどと連携強化を図り、地域完結型医療体制を推進することです。また、安心して子育てができるよう、小児医療体制の安定的な維持に努め、地域に根ざした病院として、市民の皆さまから信頼される医療機関を目指します。

● 目標達成に向けた重点事業

No.	事業項目	事業の概要	事業の目標	事業の達成実績
1	新型コロナウイルス対策	新型コロナウイルスに伴う院内感染の防止、感染者の拡大の抑制・予防のため、国の方針や市内感染者数の状況に応じた対応を図ります。	新型コロナウイルス感染者拡大防止のため、かぜ症状の方の診察・検査を速やかに実施するとともに、市民へのワクチン集団接種に協力します。感染者対応病院のひっ迫の一助として、感染症退院基準を満たした患者を受け入れるなど後方支援を行います。	発熱外来を継続的・安定的に実施するとともに、保健センターで行う新型コロナワクチン集団接種の運営に協力し、感染拡大抑制に貢献しました。感染症対応病院の後方支援として、急性期治療は終わったものの退院できない入院患者の転院(アフターコロナ)を受け入れ、在宅酸素療法の導入やリハビリなどを行いました。また、重症化リスクの高い外来患者に対し、中和抗体薬の点滴投与及び抗ウイルス経口薬の処方を行い、重症化抑制の取り組みを行いました。
2	地域医療への貢献と在宅医療の支援	埼玉県地域医療構想に示される地域の医療環境の変化に合わせ、市内の関係機関や地域包括支援センターなどとの連携強化を進め、地域医療への貢献や在宅医療の支援に取り組めます。	地域包括ケア病床の安定的稼働を図るとともに、在宅療養や介護施設からの患者の入院から退院まで円滑に行える地域連携(地域完結型医療)体制を推進します。	新型コロナ感染予防を徹底しつつ、関連施設との連携を強化し、地域包括ケア病床及び急性期を含めて昨年度より多くの患者を受入れ地域医療に貢献し、在宅医療の支援につながりました。
3	小児初期救急医療体制の推進	安心して子育てができる医療環境を整備するため、小児科第二次救急医療機関や、市内の関係医療機関と連携しながら、切れ目のない小児初期救急医療を提供できる体制を維持します。	所沢市域全体で、全日・昼間・夜間・深夜の全ての時間帯で、小児初期救急医療体制の安定的な運営に努めます。	コロナ禍においても、所沢市全体で、全ての時間帯での小児初期急患医療体制を安定的に運営し、安心して子育てができる医療環境に貢献しました。
4	老朽化施設への対応と経営状況の改善	施設の老朽化に対応するため、改めて公立病院として担うべき役割や機能等について検討したうえで「所沢市市民医療センター再整備基本構想」を策定します。併せて、コロナ禍の影響でさらに悪化した病院事業の経営改善に取り組めます。	地域の医療需要や関係医療機関等の状況等を検証し、庁内及び審議会等で協議するなどして令和3年度中に「所沢市市民医療センター再整備基本構想」を策定します。改めて経営状況を見直すとともに、専門家の支援を受け経営改善に取り組めます。	地域医療環境を踏まえ、関連団体や市民の意見を聴取し、必要な機能等の方針を定めた「所沢市市民医療センター再整備基本構想」を策定しました。また、専門コンサルタントから経営改善に向けた提案を受けました。